

コミュニケーション指導実践シート

対象	高等部	教科・領域等	生活単元学習
場所	教室	学習形態	集団学習

1 児童生徒の実態

コミュニケーション面では、顔き、手振り、ジェスチャー等でコミュニケーションを図ることができる生徒、目線を合わせて頷いたり、笑顔で声を出したりすることで挨拶や返事をする事ができる生徒がいる。人との関わりが嫌いな生徒はいないが、はじめての人や環境が違くと緊張しいつもの表出ができないことがある。

2 児童生徒の目標

- ・他ブロックの教員や事務職員と一緒に挿し木を行うことができる。
- ・掲示物に付ける葉っぱやオリーブを選択し、他ブロックの教職員に自分なりの方法で伝えることができる。

3 実践

<指導の手立て>

- ・事前に挨拶・返事・要求・選択の4つの視点の実態をまとめた「コミュニケーション4つの視点表」を他ブロックの教員や事務職員に配布する。
- ・掲示物につける葉っぱやオリーブは、光沢紙・フェルト・画用紙などの材質が異なるものを準備し、具体物に目を向けにくい生徒や視覚障害のある生徒が選択しやすいようにする。
- ・2年生がオリーブの挿し木の方法を前に出て手本を見せる。
- ・生徒6名が他ブロックの教員や事務職員とペアになり挨拶（お願いします）をする。
 - ・オリーブの挿し木をする。
 - ・じょうろかホースを選んで挿し木に水をあげる。
 - ・掲示物に付ける葉っぱやオリーブを選んで貼る。
- ・他ブロックの教員や事務職員が感想発表をする。
- ・挨拶（ありがとうございました）をする。



4 児童の変容（成果：○、課題：△）

○事前に「コミュニケーション4つの視点表」を配付したことで、他ブロックの教員と事務職員が生徒の表出を予測して待つことができ、スムーズに関わる事ができた。
△普段、はっきりと表出できる生徒が緊張からか固まってしまうことがあった。事前に表出できなくなってしまった時の声掛けや関わり方の工夫などを準備しておく必要があった。